

人とのつながりを大切に、よりよい生き方を求める実践力の育成

～ 言語感覚を磨き、自尊感情を高める取り組み ～

[指定2年次] 湖南省立石部小学校

<http://www.edu-konan.jp/ishibe-el/>

本校では、「郷土を愛し、仲間とともにチャレンジする子どもの育成」を学校教育目標に掲げ、「三つの土台を鍛え楽しくて力のつく学校で自尊感情を育てる」学校経営方針のもと、二年次の研究を進めてきた。

子ども育ての中核に校内研究を位置づけていることから、校内研究推進委員会を中心に、「道徳の時間」の授業分析会、「学びづくり部」「こころづくり部」の二部会による「道徳の時間」以外での実践、郷土資料の開発を行ってきた。「学校応援団」による地域の方々とのつながりも深まり、学校・地域が一丸となって子ども育てを推進している。

1 授業分析会



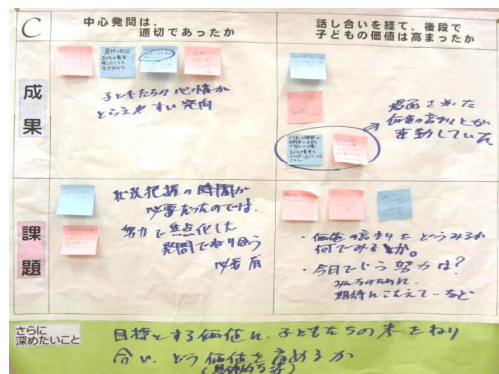
授業分析会の進行

- ◆指導案に「参観の視点」を明記する。指導案と一緒に、附属(青・ピンク)を配る。
- ◆「参観の視点」に対する意見は、授業分析会までに記入しておく。(授業参観しながら等。)

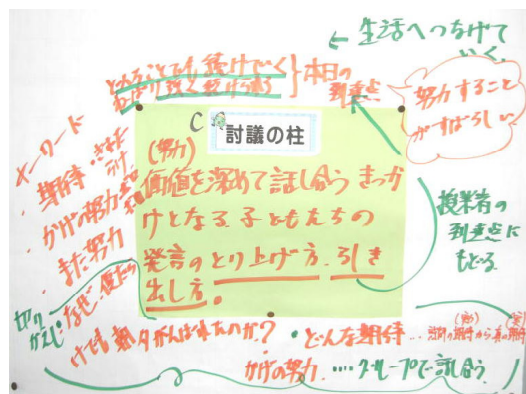
15:00	挨拶 話し合いの流れ確認(5)	*「タイムテーブル」により、分析会進行の見通しを持つ。	別紙A・B
15:05	授業解説(5)	* 授業者が、「研究テーマにかかわって参観の視点」の内容を述べる。 * 「この点についての意見を聞きたい」ということを述べてもよい。	
15:10	学年補説(5)	* 共同研究者としての相学級担任が、授業解説の補足を行う。 * 共同研究者として授業を見ていて、「こういうことが話題になれば」と考えたことを述べる。	
15:15	質疑応答(5)	* 質問には大きく二つの種類がある。 ① 答えれば終わりの質問 ② 意見を含んでいる質問 * 質問には、まとめて答える。	授業記録
15:20	参観の視点の確認	* 「参観の視点」を確認する。	
15:20	グループ協議 I (15)	<グループ司会者> * 同じ意見の者が、つなげて発言する。 * 出来ただけ授業記録を使って発言する。 * KJ法で、小見出しをつけ、構造化する。 * 協議終了5分前には、「討議の柱」を整理する。	授業記録 模造紙 マッキー
15:35	グループ発表 I (10)	* 各グループの代表が、約3分で「討議の柱」を話し合っただけの内容を「討議の柱」を発表する。	掲示板
15:45	討議の柱を確認する(5)	* 各グループが提出した「討議の柱」から、更に意見交換を深めるべき内容を見定め、「討議の柱」にする。 * 総合司会者が提案し、全体で確認する。→ 板書する。	別紙C・D
15:50	グループ協議 II (25)	* 「討議の柱」に関して、成果と課題を明らかにする。 * 学校としての共通実践の内容を提案する。 * グループ協議を短時間で打ち、全体協議ができればよい。	授業記録 模造紙 マッキー
16:15	グループ発表 II (10)	* 各グループの代表が、約3分で「成果と課題」や「学校としての共通実践」等を発表する。 * 総合司会者が、グループ協議の内容をまとめ、共通理解事項とする。	掲示板
16:25	指導助言 (25)		
16:50	各自の振り返り(5)	* 各人が、「振り返りカード」に「今日の私の学び」を書く。 * 研究主任が、後日「研究報告」により共有化する。	振り返り カード

参観の視点 … 研究テーマにかかわる授業の工夫から、参観者に注目してほしいこと。
授業者として、取り組みの是非が判断しにくいので、分析してほしいこと。
討議の柱 … 「参観の視点」を元に話し合った結果、更に討議を深め明らかにしたいこと。

図1は、本校「道徳の時間」の授業分析会の進行表である。授業分析会では、①「討議の柱」を立てる ②全員発言をする ③授業記録を使って分析をする を基本に研究を進めている。最後に本日の学びについて司会者がまとめ、確認・共通理解している。



グループ討議 I 参観の視点について話し合い、もっと話し合いたいことをまとめる。



グループ討議 II 討議の柱に沿って、さらに授業分析を進める。



グループ発表

討議のまとめ

2 二部会の取組み

(1) ころづくり部会

図2 子どもの育ちを見る 行動指標

評価	A	B (標準とする姿)	C (なりたい姿)
あいさつ	相手に合わせた言葉遣いで 言える。	自分から言える。 言われて返すことができる。	言われても返さない。 小さくて聞こえない。
ありがとう	友達がつれしくなる行動が できる。	自分から言える。	催促されないと言えない 言えない。
チャレンジ100	自分の力にあっただ課題を設定し、達成できる。	達成できる。	達成できない。
言葉遣い	心が通まるような言葉遣いが できる。	丁寧な話し方ができる。	他人の悪づく言葉を言う 命令口調。
詩の暗唱	友達を励ましなが、合格を 目指すことができる。	自ら「待つ」することや達成 感を味わうことができる。	興味を持たない 再挑戦できない。
そうじ	席の状況に流されず、せつ せと掃除ができる。	自分の担当場所は最後まで 掃除ができる。	やる気がなく退んでしまつ 遅れたらうろたえたりし て、役割が果たせない。
廊下歩行	目上の人に会釈ができる。	静かに歩く。	走る。 注意が聞けない。 廊下で遊ぶ、騒ぐ。

図2は、子どもの育ちを見る行動指標である。人とのつながりを大切にする子ども、よりよい生き方を求める子ども、言語感覚が育った子ども、自尊感情が高まった子ども、規範意識が育った子どもを、どのような姿で見えていくかを「行動指標」として明示し、子ども育てに取り組んでいる。

構成的グループエンカウンター



エンカウンター研修会を開いたり、コーナーを作って実践の足跡や資料を保存したりしている。

(2) 学びづくり部

道徳コーナー



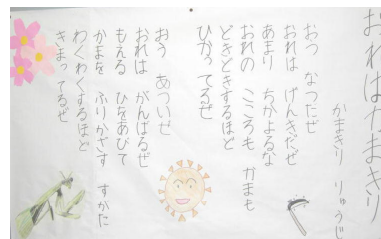
各学級の取り組みを、月替わりで紹介している。

ことばの広場



言語環境を整える取組みとして、五七五、詩などを学年ごとに掲示している。

暗唱する詩の掲示



委員会活動では、毎月の詩の掲示や、季節にあった掲示物を作っている。

3 郷土資料の開発

地域在住の詩人、野呂昶さんに郷土資料を書き下ろしていただき、郷土資料を作成し、授業参加をしていただいている。

(1) 低学年

「むかしの石部小学校」

(2) 中学年

「石部小学校の恩人 神保りゑさん」



4年生の授業の一コマ



神保りゑさんの胸像

神保さんは、貧しい生活の中でこつこつ貯めては、当時珍しかったグランドピアノなどを石部の子どものために寄付された。

(3) 高学年

「服部善七と安民米」

「大昔の石部」

4 おわりに

来年度、授業分析会を公開する研究発表会を計画している。指定は終了するが、さらに研究を深めていきたい。

(文責 田中 徳子)

